



社会貢献活動

富士通グループは、
豊かで夢のある未来の実現に向けて、
多様な社会貢献活動を展開しています。

社会貢献活動の考え方

富士通グループは、豊かで夢のある未来の実現に向けて、ICT を活用してお客様・地域社会・世界の人々と新たな価値や知恵を共創し、地球と社会の持続可能な発展に貢献したいと考えています。

社会貢献活動においては、「ICT の裾野の拡大」「挑戦の支援」「地域との共生」「環境」の4つを柱に、多種多様なステークホルダーと連携し、グループ全社員が積極的に参加して活動を展開しています。

なお、活動の活性化とベストプラクティスの共有を目的に、活動の実施記録を社内システム上で蓄積・公開し、そのデータベースを活用した社内表彰を実施しています。



社員のボランティア活動支援

富士通グループは、社会に対する社員一人ひとりの積極的な貢献活動を支援するため、ボランティア活動支援制度を整備しています。また、各事業所が所属する地域コミュニティをより良いものとするため、地域の特性に沿った各種活動プログラムを展開しています。

このような取り組みの結果、2014 年度 に全世界の社員が実施したボランティア活動の合計時間^(注)は、14.5 万時間 でした。

(注) ボランティア活動の合計時間：

「総活動時間=Σ参加者×活動時間」で算定。富士通グループが主催するイベントの場合は、参加者に社員の家族やステークホルダーを含む。また、就業時間内外でのボランティア活動を含む。

ボランティア活動支援制度

社員のボランティア活動を支援するため、以下の制度を設けています。

- ・ 青年海外協力隊／シニア海外ボランティア参加のための休職制度：最高 3 年間
- ・ 積立休暇：年 5 日支給とし、最高 20 日まで積立可（ボランティアを含む特定の目的に利用）

学術・教育の振興、文化・協賛活動

富士通 JAIMS の運営

富士通 JAIMS は、富士通の提唱により非営利な教育活動を目的に設立された財団法人で、大学院レベルの教育を提供しています。その母体である「JAIMS」は、1972年に日米の架け橋となる人材の育成を目的として、東洋と西洋の文化が融合するハワイに設立されました。以降、55カ国から約23,000名の卒業生を輩出したほか、2006年には外務大臣表彰を受賞するなど、JAIMSの活動は国際交流を促進させ、対外的にも高く評価されてきました。

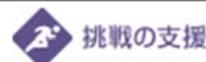
2012年7月には、近年グローバルビジネスで特に重要な役割を果たしているアジアとの連携を強化するために「一般財団法人富士通 JAIMS (以降、富士通 JAIMS)」を日本に設立し、2013年4月からは富士通 JAIMS を本部として新たな形で活動をスタートしました。バーチャルなマルチキャンパス・ネットワークというユニークな構想の下、ハワイキャンパス (JAIMS)、アジアのパートナーとともに柔軟かつ多角的な知の連携を推進することで、「アジア・パシフィック地域の人材開発と知の共創による新たなコミュニティ開発に貢献する」というミッションを実現していきます。

富士通 JAIMS が提供する主なプログラムは、知識創造理論の世界的権威である野中郁次郎氏（一橋大学名誉教授）のビジョンに基づき開発した国際マネジメントプログラム「Global Leaders for Innovation and Knowledge : GLIK」です。「地域に密着しながらグローバルな視点で、より善い未来を自らの手で創るイノベーションリーダーの育成」を目的に、短期間（約3.5カ月）にアジア・パシフィック地域（日本・米国[ハワイ]・シンガポール・タイ）で学び、変化する状況の中で本質を洞察しながら判断し実行する力とリーダーシップを鍛えます。東アジア・東南アジアを中心とする各国からの優秀な参加者との切磋琢磨、各分野で実績をもつ先鋭の講師陣や、各国での有識者との対話などの実践を通じ、グローバルに通じる感性・知性を磨けるだけでなく、グローバルビジネスのフロントに立つリーダーに必要な視野と突破力を体得することができます。

富士通は、運営資金の拠出に加えて活動を支援する組織を社内に設置し、富士通 JAIMS の活動を全面的にバックアップするだけでなく、富士通の実践知・技術・ノウハウを活動に織り込むことで、富士通 JAIMS と一体となって、学術・教育の振興、国際交流を通じた社会貢献活動を推進しています。

・一般財団法人富士通 JAIMS

www.jaims.jp



GLIKの参加者たち

富士通奨学金制度の運営



1985年、富士通は創立50周年を記念して、日本の文化・社会・経営手法を深く理解し、将来にわたって日本と世界をつなぐビジネスエリートを育成する目的で、「富士通奨学金制度」を創設しました。累計受給者は478名に上っています（2015年4月1日現在）。

当初は JAIMS で日本経営を学ぶ参加者への奨学金制度として始まりましたが、現在は日本以外のアジア太平洋地域18カ国のビジネスパーソンを対象に、富士通 JAIMS の GLIK プログラムに参加する機会を提供しています。

この奨学金には、毎回多数の応募がありますが、英語力、学業成績、業務経験などに加え、自国の発展に寄与したいという意志などを踏まえて奨学生を選定しています。富士通は、アジア太平洋諸国で事業展開する富士通グループ会社と連携して募集活動を共同で実施するなど、ビジネスリーダーの育成、文化交流や相互理解の促進を通して、自国や自コミュニティへの貢献を考える人たちに奨学金を授与し、国際地域社会に根付いた教育の提供を通して社会に貢献しています。

- ・ Fujitsu Scholarship (英文サイトのみ)
<http://www.fujitsu.com/global/about/csr/activities/community/scholarship/>



富士通奨学金受給者たち

「数学オリンピック」「情報オリンピック」の支援

富士通は、公益財団法人「数学オリンピック財団」および特定非営利活動法人「情報オリンピック日本委員会」の活動を支援し、将来の社会の発展を担う貴重な人材の発掘・育成に寄与しています。

数学オリンピック財団は、国際数学オリンピック (IMO) への日本代表選手の選抜、派遣を通じて数学的英才の発掘および伸長を図るとともに、国際的視野での数学教育発展に貢献することを目的として、1991年に設立されました。富士通は、同財団の設立にあたって、他2社・1個人とともに基本財産を拠出しました。また、IMO への日本代表選手の選抜大会である日本数学オリンピック (JMO) や日本ジュニア数学オリンピック (JJMO) における成績優秀者への副賞提供などの支援を行っています。

一方、情報オリンピック日本委員会は、日本の数理工学分野を支える人材養成に寄与することを目的として2005年に設立され、中高生を対象としたプログラミングコンテストである国際情報オリンピック (IOI) への参加および協力事業を展開しています。富士通は賛助会員として、その運営を支援するとともに、IOI への日本代表選手の選抜大会である日本情報オリンピック (JOI) における成績優秀者に副賞を提供しています。



第25回数学オリンピック表彰式

高専生を対象としたプログラミングコンテストを支援

富士通は、全国高等専門学校プログラミングコンテストを特別協賛企業として支援し、企業賞「富士通特別賞」を設け、受賞チームに富士通製パソコンを贈呈しています。

2014年度は復興支援をテーマに、地域内で「つながり」を意識することができるウェブアプリ(地図上で行われるコミュニケーションツール)を作成した一関工業高等専門学校に富士通賞を贈りました。

今後も若き ICT 技術者の育成を支援していきます。



第25回全国高等専門学校プログラミングコンテストにて「富士通特別賞」を受賞された一関工業高等専門学校の皆さん

「富士通キッズプロジェクト：夢をかたちに」

子どもの「理数離れ」が懸念される中、富士通グループでは、「次世代の人材育成は企業の使命である」という考えから「ものづくりの楽しさ、技術のすばらしさ」を次世代に伝える取り組みとして、2007 年から、小学校高学年の子どもたちを対象とする「富士通キッズプロジェクト」を実施しています。

富士通グループでは、このプロジェクトを全国へと広げ、未来へとつなげていくために、ウェブサイトを中心メディアとして位置付けています。専用ウェブサイト「富士通キッズ：夢をかたちに」を設け、その中で“スーパーコンピュータってなあに？”など最新技術やものづくりの楽しさを子どもにもわかりやすく伝えるコンテンツや、環境保全活動、ユニバーサルデザイン、パソコンの仕組みなど、学校の授業内容と連動した学習用コンテンツを準備し、楽しく学べる工夫を施しています。

また、このプロジェクトでは、毎年、夏休みに富士通川崎工場で「富士通キッズイベント」を開催しています（情報オリンピック日本委員会と共同開催）。7 回目となった 2014 年度は、抽選で選ばれた約 70 名の子どもたちが、ゲームを交えてコンピュータの仕組みについて楽しく学びました。また、初期のコンピュータが動くところを見学したほか、スーパーコンピュータの技術者たちから直接話を聞き、見学・体験後には、ICT の力を学んだ子どもたちがタブレットを使って、「あったらいいな」の夢を一緒に表現しました。



富士通キッズイベント 2014 の様子

・子ども向けサイト「富士通キッズ：夢をかたちに」
<http://jp.fujitsu.com/about/kids/>

文化・協賛活動

高校生科学技術チャレンジ

富士通は、全国の高校生および高等専門学校生を対象とした自由研究コンテスト「高校生科学技術チャレンジ（Japan Science & Engineering Challenge：JSEC）」の「科学技術創造立国を支える若者の育成」という趣旨に ICT 企業として賛同し、特別協賛しています。

本コンテストは、内閣府、文部科学省などの後援で毎年開催されており、各界から高く評価されています。優勝者は、毎年 5 月に世界 50 カ国以上、約 1,500 名の学生が集結して米国で開催される世界最大の科学技術コンテスト「ISEF（International Science and Engineering Fair）」に、日本代表として出場しています。2014 年度の第 12 回大会は、全国 216 校から過去最多の 221 件の研究作品が寄せられ、2014 年 12 月に実施された総合審査に 30 組（10 個人、20 チーム）が臨みました。



・高校生科学技術チャレンジ
<http://www.fujitsu.com/jp/about/resources/advertising/event/jsec/>

■ お仕事体験テーマパーク「カンドゥー」

富士通は、お仕事体験テーマパーク「カンドゥー」(千葉県)に、ICTをテーマにしたアトラクション「富士通テックラボ」を出展しています。「未来を担う子どもたちの人格と自立心の向上」を目的とするカンドゥーのブランドパートナーとして、子どもたちにICTのチカラや魅力を伝えるとともに、夢をかたちにするお手伝いをすることが、ものづくり企業としての富士通の使命と考えています。



- ・ お仕事体験テーマパーク「カンドゥー」
<http://www.fujitsu.com/jp/about/resources/advertising/event/kandu/index.html>

■ 富士通コンサートシリーズ

1987年から富士通が協賛している「富士通コンサートシリーズ」は、毎年、世界の第一線で活躍する著名な指揮者・オーケストラを迎え、魅力あるソリストとの共演とともに深い感動をお伝えしています。海外の良質な人気オーケストラを、長く継続的に協賛していくという基本方針の下、2014年度は、ハンガリーが誇る世界的巨匠ゾルタン・コチシュと”炎のマエストロ”小林研一郎の指揮の下、「ハンガリー国立フィルハーモニー管弦楽団」の公演が全国で計4回開催されました。



- ・ 富士通コンサートシリーズ
<http://jad.fujitsu.com/event/2014/hungary/>

■ 富士通杯 達人戦

富士通が協賛している「富士通杯 達人戦」は、1993年に創設された将棋界唯一の40歳以上棋士によるシニア戦です。タイトル保持者から現役ベテラン棋士まで、選抜された棋士たちが一番勝負のトーナメント方式で「達人」を目指して競います。すべての対局はインターネット中継され、決勝戦は、有楽町朝日ホールでの公開対局となります。22回目を迎えた2014年は6月から9月にかけて対局が行われ、森内俊之竜王(当時)が高橋道雄九段に勝利し初優勝しました。



なお、本大会への協賛は2014年度で終了しました。

- ・ 富士通杯 達人戦
<http://jad.fujitsu.com/event/shogi/>

スポーツを通じた貢献活動

富士通グループでは、スポーツを通じた健全な社会活動を展開しています。陸上競技部、アメリカンフットボール部「フロンティアーズ」、女子バスケットボール部「レッドウェーブ」からなる富士通のスポーツ活動は、富士通の積極的なイメージを体現する組織として、日々その技術の向上に努めています。

陸上競技部



富士通の陸上競技部は、「世界で戦える選手を育成」をスローガンに、1992年のバルセロナオリンピックから2012年のロンドンオリンピックまで6大会連続で日本代表選手を輩出しています。また、2008年には、JOCスポーツ賞「トップアスリートサポート賞」最優秀団体賞を受賞するなど、1990年の創部以来、常に日本陸上界をリードしてきました。所属するトップアスリートたちは全国各地で行われる陸上教室にも積極的に参加し、日本の陸上競技力の向上とスポーツの発展に寄与しています。

2014年度は、アジア大会に5名の日本代表選手を輩出。ニューイヤー駅伝には25年連続で出場。また、男子20km競歩において鈴木雄介選手が世界記録を樹立するなど、日本陸上界を牽引する存在として活躍しています。

・富士通陸上競技部

<http://sports.jp.fujitsu.com/trackfield/>



2014年11月に千葉県で開催された陸上教室の様子
 © FUJITSU SPORTS

アメリカンフットボール部「フロンティアーズ」



富士通のアメリカンフットボール部は、1985年に創部され、「アマチュアリズムで仕事もフットボールも日本一に」をスローガンに、日本アメリカンフットボール界の開拓者となることを誓い「FRONTIERS（フロンティアーズ）」と命名されました。

社会人東日本選手権である「パールボウル」では、2003年の初優勝を含め、3度の優勝。2014年は、社会人日本一を決める「JAPAN X BOWL」で優勝を飾り、初出場の日本選手権「RICE BOWL」にも勝利し悲願の日本一を獲得するなど、名実共にXリーグのトップチームとして活躍しています。

また地域貢献活動においては、活動拠点を置く川崎市から「かわさきスポーツパートナー」に認定され、2010年からは川崎市内の小学生を対象に安全に気軽に取り組めるフラグフットボールを体育の授業で指導するなど普及活動に取り組んでいます。

・アメリカンフットボール部「FRONTIERS（フロンティアーズ）」

<http://sports.jp.fujitsu.com/frontiers/>



挑戦の支援



地域との共生



2014年7月に川崎市内の小学校で開催した「ふれあい教室」

©NANO Association

女子バスケットボール部「レッドウェーブ」



富士通の女子バスケットボール部は、1985年の創部後、赤い波が強豪チームを脅かす存在となることを目指して「RedWave（レッドウェーブ）」と命名。2006年の第72回全日本総合バスケットボール選手権（皇后杯）で初優勝を飾ると、2008年まで3連覇を達成し、2007年度の第9回Wリーグ（WJBL 2007-08）では、悲願の初優勝を果たしました。2005年以降は10年連続でプレーオフに進出しているほか、2014-15年シーズンは7年ぶりにファイナル進出しWリーグ準優勝を果たすなど、Wリーグ屈指の強豪チームに成長しています。

社会貢献活動では、活動拠点を置く川崎市から「かわさきスポーツパートナー」に認定され、川崎市内の小学生を対象に体育の授業で実技指導を行う「ふれあい教室」を開催し、地域でのスポーツの振興とバスケットボール界の底辺拡大に努めています。この「ふれあい教室」は、2004年から10年間継続しており、2014年度は10回実施しました。

・女子バスケットボール部「RedWave（レッドウェーブ）」

<http://sports.jp.fujitsu.com/redwave/>



挑戦の支援



地域との共生



2014年に川崎市内の小学校で開催した「ふれあい教室」

©NANO Association

川崎フロンターレの活動を支援



富士通がオフィシャルスポンサーを務める川崎フロンターレは、1999年にJリーグに加盟。川崎市をホームタウンとしてプロサッカー事業の展開、地域の青少年の育成やスポーツ文化発展に貢献する活動に取り組んでいます。

また同チームは、2011年の東日本大震災直後から「Mind-1 ニッポン」プロジェクトを立ち上げ、被災地の中長期的な復興支援活動に継続的に取り組んでいます。



復興支援活動の一環として2014年12月に岩手県陸前高田市で開催したサッカー教室
 © KAWASAKI FRONTALE

協賛活動



富士通レディースゴルフトーナメント

富士通が主催する「富士通レディースゴルフトーナメント」は1980年にプロアマの大会としてスタートしました。1983年からはLPGA公認ツアートーナメントとして、毎年10月に開催されており、女子ゴルフ界では歴史ある大会の1つです。2014年度は10月17日から19日にかけて開催され、95名の選手が出場しました。



- ・富士通レディースゴルフトーナメント
<http://www.fujitsu.com/jp/about/resources/advertising/event/golf/>

出雲全日本大学選抜駅伝競走

日本三大大学駅伝の1つに数えられる「出雲全日本大学選抜駅伝競走」は、1989年より開催されており、毎年全21チームが熱戦を繰り広げます。富士通は当大会への協賛を通じ、学生スポーツの健全な発展を支援しています。



- ・出雲全日本大学選抜駅伝競走
<http://www.fujitsu.com/jp/about/resources/advertising/event/ekiden/>

国際支援、災害支援

飲料販売を通じた熱帯雨林再生活動の支援



富士通グループでは、社会貢献・環境活動の取り組みの一環として、富士通のプライベートブランド飲料を社員向けに販売し、その売上の一部を「富士通グループ・マレーシア・エコ・フォレストパーク」における熱帯雨林再生活動に充てています。同飲料は 2009 年の販売開始から 2014 年度末までの累計で約 230 万本を売り上げ、活動推進に寄与しています。

グループ社員による社会貢献活動



富士通グループでは、多くの事業所でペットボトルキャップやプリペイドカード、切手、本、CDなどを回収し、それらの収益金をポリオワクチンや緑化の苗木、国際協力への寄付に活用するなど、グループ各社の社員が身近な社会貢献活動に自主的に取り組んでいます。

南アジアでボランティア活動を展開する国際 NGO「シャプラニール」（市民による海外協力の会）を支援する活動として、書籍・DVDを回収・売却する「ステナイ生活」を継続的に実施しています。

自然災害による被害への支援



富士通グループは、自然災害による被害の復興に役立てていただくため、義捐金寄付などの支援を行っています。

2014 年度は 8 月に発生した中国・雲南省地震、広島市土砂災害の被災地に向けた義捐金を、大使館や国際人道支援組織などを通じて寄付しました。

2014年度の活動事例

ICTものづくり体験の場「家族ロボット教室」



株式会社富士通コンピュータテクノロジーズは、組込みシステム開発専門会社としての技術と経験を活かし、「家族ロボット教室」を開催しています。子どもたち自身がロボットを組み立て、パソコンを使ってプログラミングして走行させるまでの一連のものづくり体験を同社技術者がサポートします。

この取り組みは「被災地の子どもたちに、ものづくりの楽しさを体験し、夢や希望をひろげてほしい」という思いから、2011年12月に「震災復興支援 家族ロボット教室」としてスタートしました。岩手県庁様ご支援の下、県内大学、高等専門学校の教員や学生にボランティアでご協力いただき、これまで33回の教室を開催、685組のご家族にご参加いただいています。

2014年度は被災地以外でも同様の取り組みを展開しました。これからも、行政機関や地域団体、学校などと連携しながら、未来を担う子どもたちがものづくりの魅力を楽しく体験できる機会を提供していきます。



ロボットを片手にプログラミングに熱中

子どもたちの安心・安全なインターネット活用を目指して



日本における小学生の携帯電話・スマートフォン所有率は約50%（50.4%）^(注1)に達し、小学生の約63%^(注2)がネット接続を経験するなど、情報端末機器とインターネットの低年齢層への浸透が進んでいます。

このような環境変化によって、子どもたちに共創の機会や知識基盤の拡大といったメリットが生じる一方で、インターネット上で事件の被害者や加害者になってしまうリスクも高まっています。そうした中、子どもたちがより安心・安全にインターネットを利用するために必要なモラルの習得が求められています。

インターネットサービスプロバイダのニフティ株式会社と富士通は、インターネットを安全に使うための知識や考え方を伝えるため、インターネットを介したいじめや不当請求被害などの事例を紹介し、その対処方法や正しい振る舞いを皆で考える出前授業を展開しています。

2014年度は、首都圏の小学校を中心に73校で出前授業を実施しました。

今後も富士通グループは、未来を担う子どもたちが正しくインターネットを利用し、情報社会で安全に生活するための教育支援活動を続けていきます。



出前授業の様子

データ出典元

・内閣府「青少年に関する調査研究等」トップページ <http://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/chousa/h26/net-jittai/pdf-index.html>

(注1) 小学生の携帯・スマホ保有率

・内閣府（2015/3） P.16 <http://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/chousa/h26/net-jittai/pdf/s2-1-1-1.pdf>

・内閣府（2010年） 20.9% スライド3枚目 <http://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/chousa/h22/net-jittai/pdf/kekka.pdf>

(注2) インターネット利用率

・内閣府（2015/3） P.19 <http://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/chousa/h26/net-jittai/pdf/s2-1-1-1.pdf>

・内閣府（2010年） 17.9% スライド3枚目 <http://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/chousa/h22/net-jittai/pdf/kekka.pdf>

女性の活躍による社会の活性化を目指して



ICTの裾野拡大



挑戦の支援



地域との共生

日本では社会の少子高齢化に伴う労働力人口の減少から、女性のより一層の活躍が必要とされています。特に研究者数に占める女性の割合は14.6%^(注3)という低水準にとどまっており、理系の道を志す女性が少ないことが課題となっています。

そこで2015年1月、富士通と川崎市は共催で、女性の理系分野での活躍を支援するため、女子中高生の皆さんを対象としたシンポジウムを行いました。

基調講演には気象予報士の井田寛子さんをお迎えし、理系分野で学び働くことの魅力や、夢と志を胸に努力することの素晴らしさなどについてお話をいただきました。

また、パネルディスカッションでは、女子中高生の皆さんに、理系で活躍する女性の先輩を身近に感じていただくとともに、理系分野への関心を深めていただけるよう、富士通の宇宙関連業務に携わっている女性幹部社員も登壇。家庭と仕事の両立についてなど、参加者からの質問に対して登壇者がメッセージやアドバイスをお伝えしました。

富士通は今後も、サイエンスの魅力を多くの方に伝え、女性の理系分野における活躍を支援していきます。



基調講演の様子

データ出典元

(注3) 研究者数に占める女性割合

・「平成26年度 科学技術研究調査結果の概要」(総務省) P.10 http://www.stat.go.jp/data/kagaku/kekka/kekkgai/pdf/26ke_gai.pdf

(トップページ) http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01toukei05_01000069.html

英国における就業能力養成への支援



挑戦の支援



地域との共生

英国では、定職を持たない若年層が100万人もいることが大きな社会問題となっています。

富士通 UK and Ireland は、この問題解決に貢献すべく、BITC (Business in The Community)^(注4)と連携し、生活技能やビジネスの理解向上のために理数知識を与えるプログラム“Business Class initiative”に参加しています。その活動の一環として、長年にわたりハンプシャー州・ベイジングストークの The Vyne School とパートナーシップを構築し、地域学生に対する指導に取り組んでいます。

また、就業支援のために富士通社員が模擬面談を行っており、その結果、学生のエンプロイアビリティ(雇用可能性、雇用され得る能力)を40%向上させ、高い評価を得ました。

今後も、富士通は若者たちをサポートし地域コミュニティの活性化に努めていきます。



富士通 UK and Ireland Head (2014年当時) と The Vyne school の生徒たち

(注4) BITC (Business in The Community) :

チャールズ皇太子を長とするビジネス主導の慈善団体で、社会問題を解決し地域社会を変えていくことを目的としています。